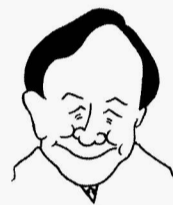


## ▼▼イケメン、美貌、若さは武器か▼▼



## 勝負を決する外見力

「世間の常識」では、「美人候補」や「イケメン候補」は選挙に強いと思われがちだが、それには少し説明が必要だ。

選挙プランナーの立場から書かせてもらうと、外見力は大切である。美人とイケメンはその意味でも強い。有権者は基本的に、「政策」と「それ以外のこと」で候補者を選ぶ。後者の「それ以外のこと」とは「ノン・バーバルコミュニケーション」。非言語会話能力で、視覚、聴覚で訴えるもの、すなわち「外見力」をさす。言葉を変えると「好感度」だ。

マスコミの世論調査や出口調査だと、有権者の四、五割は複数回答で「政策で候補者を決める」と答える。しかし、投票日の出口調査で「あなたはなぜ〇〇候補に入れましたか」と訊いて、「政策やマニフェストで決めた」と断言するのは数パーセントもないだろう。大部分は、

「好感が持てるから入れた」とか、「顔で選んだ」といった理由から選ぶケースが多い。有権者のなかには、「ポスターで選んだ」と口にするのをはばかり、「政策で決めた」と答える人もいるかもしれない。

今回の都知事選でも「オリビックに反対」という理由だけで浅野氏や吉田氏に入れた人は少ないと思う。「オリビックに反対」であるとともに、候補者になにかしらの共感・好感を覚えたはずである。

いい悪いの問題ではなく、有権者は現実の問題として、総合的なイメージで候補者を選ぶ。そのかわり一口にイケメン候補、美人候補といっても、さまざまなタイプがいる。イケメンや美人だから、そのまま好感度と外見力が抜群かというところ、そこに落とし穴もある。

具体的には、おばさんに「かわいい」と評価されるイケメン候補は人気がある。斎藤佑樹投手が持つようなかわいらしさは、選挙の世界でも抜群の外見力となる。これは強い。

逆に、ホストを彷彿とさせるような「かわいくない」イケメン候補は、おばちゃん受けはしない。某区の保守系若手候補、彼はものすごくイケメン。しかし、過去に二度挑戦しているが落ちている。有力候補に数千票まで迫りながら、負けてしまう。イケメンだから即当選というわけでもない。

それほどイケメンではないが、好感度があってトップ当選する人もいる（失礼）。鈴木正人氏という埼玉県志木市議から埼玉県議に当選した男性がいる。一緒にいて楽しい人だし、なにより好感度抜群の人だ。もともと吉本興業において、河村たかし氏、上田清司氏の秘書を経て、政治家になった人で、演説も面白い。

同じことが美人候補にも当てはまる。どこかのミスコンテストで優勝した某都内元女性市議は美人として有名だったが、のちに落ちてしまった。いくら美人でも、必ずしも票に結びつくわけではないのだ。